

大雨の時に、列車が速度を落として運転したり、運転を見合わせたりするのは**なぜ**ですか？



大雨は、**鉄道施設にさまざまな被害**を及ぼす可能性がありますので、列車運行の**安全を確保**するために行います。また、一時的な視界不良により運転を見合わせる場合があります。



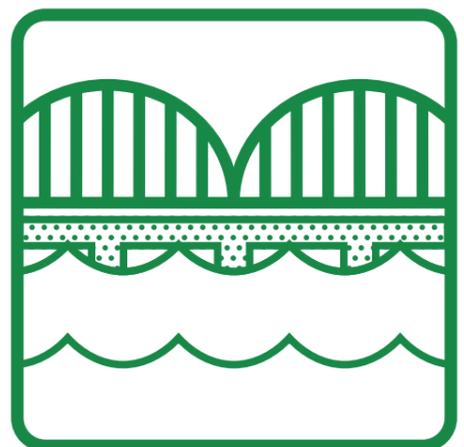
大雨が列車運行に影響を与える事例



土砂崩れ



線路冠水



河川増水

大雨による運転規制の基準

通常運転

安全に運転できる雨の場合

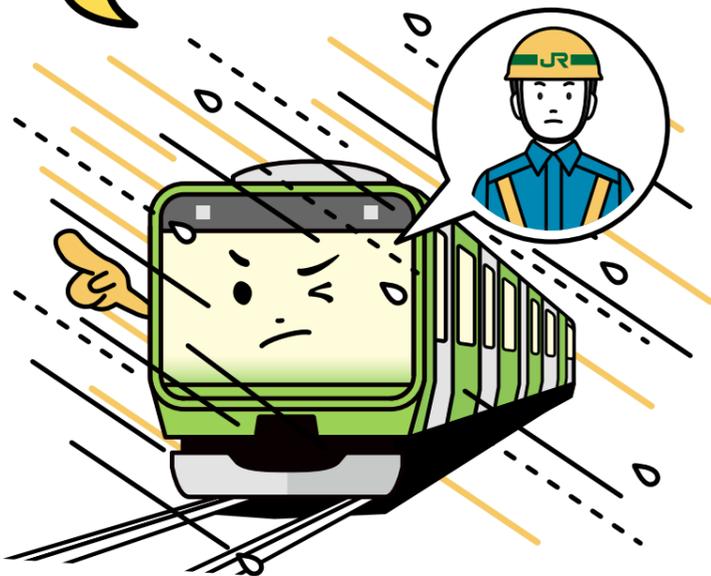
いつも通り運転するよ!



速度規制

一時的な雨の強まりや長時間の降雨により
鉄道施設に影響を及ぼす可能性がある場合

速度を落として運転するよ!
施設係員が乗り込んで
一定頻度で巡回するんだ!



施設係員が
あらかじめ定めた区間※を
一定頻度で巡回し
施設の状態を確認します。



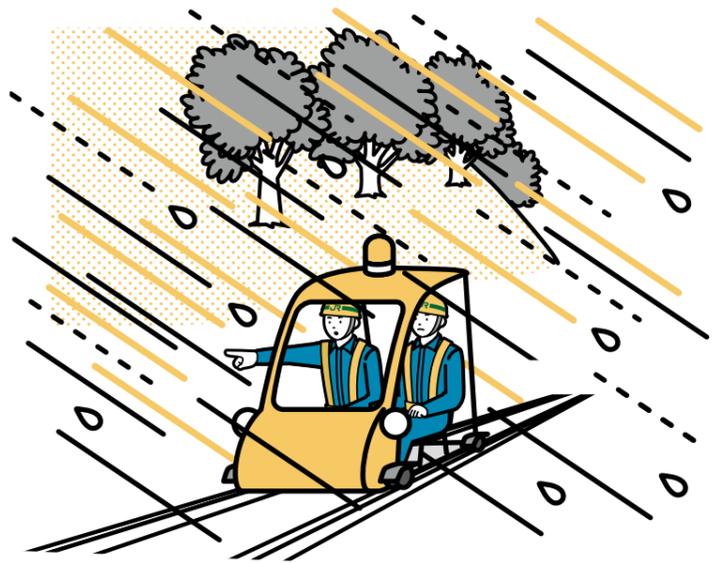
※あらかじめ定めた区間の点検とは、特に災害発生のおそれがある箇所に対して集中的に点検を実施することです。

運転見合わせ

集中豪雨等、強い雨が長時間継続することにより、
鉄道施設へ被害を及ぼす可能性が高い場合

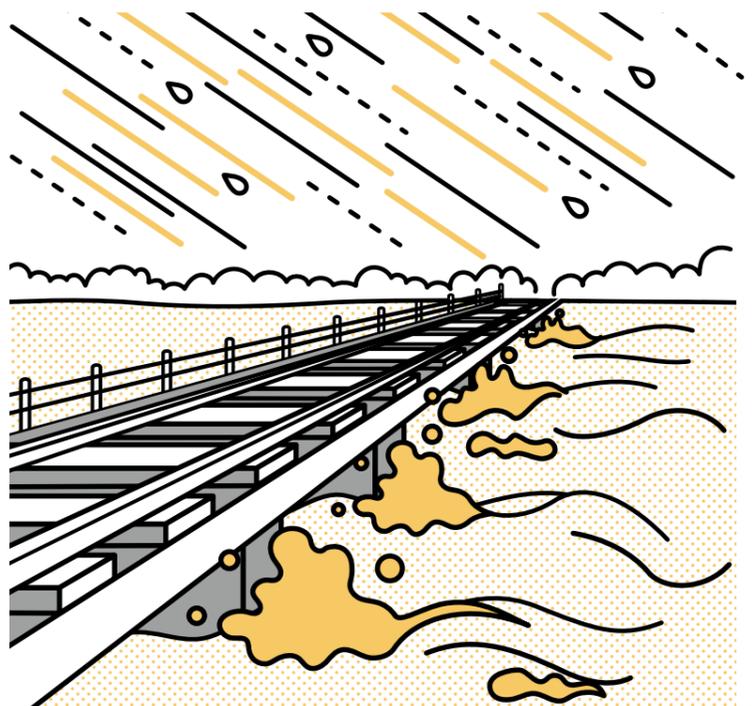
雨が弱まって、
安全が確認できたら
運転再開するよ!

一定頻度で巡回し、線路や
のり面等、鉄道施設の状態が
安全か確認します。



※雨の運転規制値については、各路線における鉄道施設の状態に応じて定められています。

この他に河川が増水した場合
についても運転を見合わせる
場合があります。



大雨が降った際に運転を見合わせるのはわかるけど、**雨が上がってからも**すぐには**運転を再開しない場合**があるよね。

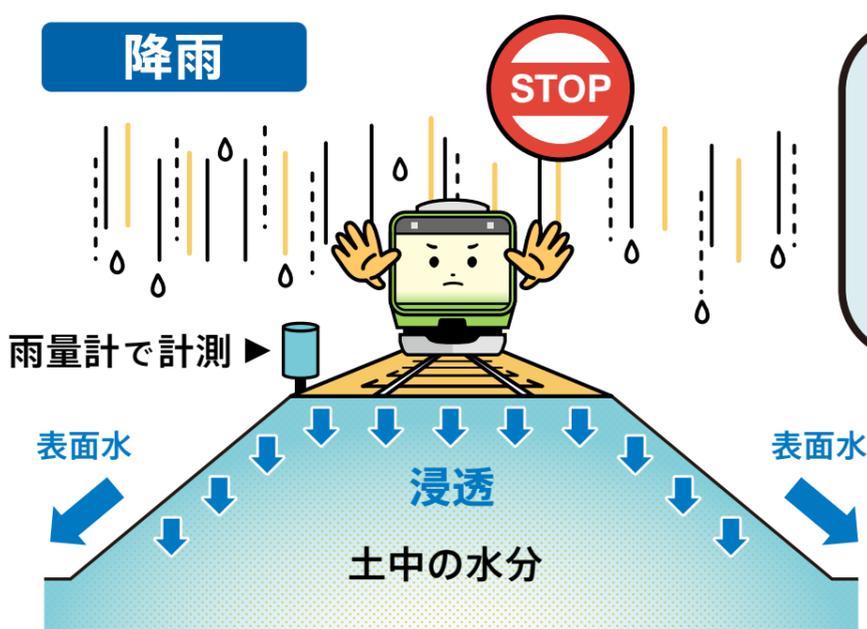


降雨量が運転規制値を下回り、係員が**線路設備の状態を全線にわたって点検**したのちに運転再開します。雨が上がっても、**土中へ浸透した雨の影響**が残り、**運転再開に時間を要する場合があります。**



「実効雨量」について

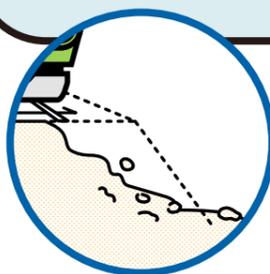
当社では、運転規制の判断指標に、土中の水分量を考慮した「実効雨量」を採用しています。この指標は、土砂災害との相関性が高く、土中に残った水分の影響をより正確に把握することで、安全性を向上させています。



土砂災害が発生するおそれがあるので、運転を見合わせます。



まだ、土中に多くの水分が含まれているので危険です。



点検をして、土砂災害のおそれがなくなったことを確認し、運転を再開します。



降雨防災の取組み

のり面防護工事

大量の雨が降った場合に、斜面が緩みやすい等、影響を受けやすい箇所については、斜面崩壊を防止するために、のり面防護工事を実施し、安全性の向上と運転規制時間の短縮を図っています。



災害検知

土砂崩壊や落石のおそれがある箇所に対し、災害検知装置を設置し、早期に危険を感知することで、事故の未然防止を図っています。

